

寺子屋ふれあい通信

とうもん寺子屋

春から夏へ

理事長 金子正男

寺子屋塾はこの4月から39人の生徒と、20人の先生でスタートしました。

生徒の皆さんは、学校や自分の家では出来ない勉強をしてください。

ボランティアで熱心に勉強相手をしている先生に、どうぞ質問をしましょう。

「〇」ゼロは数ででしょうか？ 1と1はいくら掛け算しても1ですね？ 英語では、あなた、君、お前などみんなYOUですね？ 宇宙の無数にある星には、生命のあるモノがいるのでしょうか？

先生が困るような難問は一緒に考えましょう。

保護者の皆様は時間をみて子供の様子を見てください。先生も研修会や指導者会議を開いて頭がさびないようになっています。

【お願い】自転車で来る人は帰にはライトをつけ、スピードを出さない、傘を片手に乗らないでね。

第六号
2017.7.3
発行 稲門寺子屋西東京
題字 金子正男



事務局便り

■現況報告（五月末日現在）

平成二十九年度が四月十一日から始まりました。講座数は二十九、指導者は二十名、生徒は三十九名、内二教科受講生徒は二十五名（全体の六十四%）。

今年度も異なる二教科の応募者が多数いらっしやいましたが、講座は原則同学年二〜三名を定員としていきますので、一部の方にはご希望に沿うことができず申し訳ありませんでした。

生徒の希望する講座に多数の応募があった場合は①継続生徒、②高学年を優先、それでも決められない場合は③抽選とさせていただきます。ご理解の程よろしくおねがいします。

《今年度から算数・数学受講生に対して新しい試みを開始》

算数・数学の受講生で現学年の学力に届いていないと判断（授業開講日にテストを実施）した場合、前学年までの補講をすべしとしました。

例えば中学生で小数・分数の計算がスムーズにやれない、文章題ができないなど。

問題集は当法人で購入したものを貸与します。従いまして現学年の授業に若干の支障が出る場合がありますので予めご了承下さい。当法人としましては、受講生に基本的な学力（小数・分数の計算等）をつけていただきたいという思いから、今年度よりこのような取り組みを実施した次第です。

《問題はよく読み、素直に学ぶ》

問題を解く際には何度でも問題をよく読み、何が求められているかを理解し、解答しましょう。解らないからといってすぐ答えを見ないで、考え抜くことです。この解き方の心構えを身に付ければ実力が付いてきます。健康に気をつけてガンバリましょう。



生徒数	国語		算数・数学		英語		合計
	男	女	男	女	男	女	
学年							計
小学5年			1	1			2
小学6年	3	2	6	4			15
中学1年			1	3	1	2	7
中学2年			5	10	5	6	26
中学3年	1		4	3	3	3	14
合計	4	2	17	21	9	11	◆64

※ 39名中2科目受講者が25名います。生徒のべ人数は64名。

	講座数		指導者数
	小学生	中学生	
国語	2	1	2
算数・数学	6	11	12
英語	—	9	6
計	8	21	20
	29		

※ 1人の指導者が複数講座を担当しているの
で、講座数と指導者数は一致しません。



アクティブ・ラーニング
がめざすこと

福岡市 元小学校校長
門 悟

今年の一月末に、寺子屋の先生方と研修を一緒にした縁で、会報の原稿依頼をいただきました。これからの活動に少しでもお役に立てれば幸いです。

アクティブ・ラーニングとは

さて、アクティブ・ラーニングという言葉が聞かれたことがあるでしょうか。一、三年前から文部科学省は、「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」と定義し、次期の学習指導要領改訂でめざす学び方として検討を重ねてきました。

しかし、今年三月に公示された改訂では、その言葉は消え、代わりに「主体的・対話的で深い学び」とされています。その理由は、「アクティブ・ラーニング」という言葉が非常に多義的で、概念が成熟しておらず、法令には使えない

- 生徒の作文.....2
- 新任の先生から.....3
- 指導者会議・勉強会.....4
- 子供の未来応援基金.....4

い。「からだそとです。やや拍子抜けの感がありますが、学びの量とともに質や深まりを重視し、「何のために、どのように学ぶのか」をめざす姿として掲げています。そのためにはどのような授業の改善が必要でしょうか。

改善の三つの視点

二年前の教育課程企画特別部会での論点整理に挙げられた授業改善の三つの視点、プロセス（過程）、インタラクション（相互作用）、リフレクション（振り返り）が参考になります。

プロセスとは、知識・技能を習得し、活用しながら探究する学習の過程が、問題の発見から解決にいたる過程として進められているか。

インタラクションとは、他者との協働や外界との相互作用の中で考えを広げ深める対話的な学びとして進められているか。

リフレクションとは、児童生徒が見通しを持って取り組み、自分の学習を振り返って次につなげる主体的な学びとして進められているか。

寺子屋での学びをいじ変えるか

では、寺子屋での先生方の

指導、子どもたちの学びにはどんな示唆が得られるでしょうか。

第一に、国語、算数・数学で、漢字や語句、計算や文章問題をドリル学習、反復学習として進めるだけでは習得だけになり、プロセスの視点は生まれません。漢字や語句をどのような場面、目的で使うかを意識させる必要があります。また計算・文章の問題の意味を考え、どんな場面で必要か、数や条件を変えたらどうなるかなどを考えることです。

四月中旬に実施された全国学力実態調査（小6・中3対象）の出題傾向を見ると、日常生活場面の中から問題設定がされ、その必要感を重視していることが分かります。

第二に、インタラクションの視点は、寺子屋ではむしろいいでしょう。

一対一の指導法では、先生と生徒が「教える」「学ぶ」という一方向になりやすいからです。けれども、「ミニケースション」のあり方を共に話し合う対話として変えていく努力はできそうです。先生と生徒がちがう考えを出して、説明し合うなどの言

語活動を工夫するのです。その中で、「はじめに、次に」「たとえは、つまり」「その理由は、なぜか」というなどの論理的思考力、判断力を身につける改善が可能になります。生徒を二人に増やして相互の対話で学習を進める方法もぜひ取り入れたいものです。

第三に、リフレクションです。毎回の学習で終了前五分間の振り返りは、生徒自身が間違いや解決の理由を明確に自覚し、自分の学び方を記録し、メタ認知することです。その継続を通して、「問題が解決した」という満足感だけでなく、「こんな方法で解決できた」「分かりやすく説明できた」という達成感が次の意欲へとつながっていきみます。

家庭での親の努力は

学校や寺子屋での学びを支えるのが家庭での生活習慣です。私自身、小学校の校長として、次のような点を保護者に話してきました。

○毎日の家事の中で子どもが分担することを決め、家族の一員としての自覚をもたせること。

○スマホやゲームをする時間を親子で話し合い、具体的な約束として見える場

所に掲示して、守らせること。

○スポーツや漫画、ゲームなど、子どもに興味関心のあることに関心を持って参加し、分からないことを尋ねること。

○親自身が新聞や本を読む機会を増やし、その姿を子どもに見せながら、社会や世界のニュース、話題を投げかけること。

○親が経験した小中学生の頃の運動会や学芸会、友だちや先生のことなど、思い出話を自分から話してやること。

どうぞできることから実践してみてください。



生徒の作文

寺子屋塾で、国語の授業の一環として指導者のご指導の下、生徒に作文を書いてもらいました。

■寺子屋について■ 六年 SYさん

寺子屋のことは最初、「西東京ニュース」を見て知りました。まず、福祉センターに、案内書を取りにきました。読んで見たら徐々に関心を持ったので入りました。場所は徒歩2分ぐらいで、家からとても近くて、良かったです。

学校よりも少人数なので、いっぱい深め合えてうれしいです。分からない漢字も教えてくれるので、学校のノート作りの時に書いて気持ち良いです。算数でも、ただ先へ進むのではなく、今までのことを確実にできるように教えてくれます。できないことも分かり、計算が全部できた時は、とても気持ち良かったです。これからも図形や計算などがあるので、いろいろな力を伸ばしたいと思います。

寺子屋は5時からで学校から帰って十分に休めるので、すぐに頭を勉強に切りかえることが出来ます。5時にチャイムが鳴って同時に市の職員が帰るので、仕事をしている人の声も聞こえなくなります。とてもやりやすいかん境なので、習ったことが頭に入りやすいです。休けい

も十分あるので、しっかりと休めます。視界にも目ざわりな外の景色もないのでしっかりと考えることができず。学校では。「？」をはてなマークと習ったのを疑問符と教えてくれて中学の準備にもなります。これからも、しっかりと勉強して、来年も通いたいです。



■寺子屋 二年生 ■ 六年 MOさん

私は、寺子屋二年目です。五年生から国語と算数をやっています。初めてやる国語と算数の授業はどんな感じかな、楽しみだなと思っていました。

私は、先生が発表される時とてもわくわくしていました。先生が発表され、寺子屋のマナーなどの話を聞きました。そして私達が一年間勉強するところに移動しまし

た。席にすわって、勉強道具を出してよいよ授業開始です。まずあいさつをするという事までは国語と算数は同じです。次に自分の名前を国語の時は言って、算数の時は書きました。国語は、先生から漢字の十問プリントが配られ、算数は、問題プリントが配られました。分からない字や、問題はあったのですが、先生はやさしく、そして分かりやすく教えてくれました。その他のプリントもやり、初めての授業が終わりました。

毎回国語の授業の時、五時のチャイムが鳴ると同時に授業が始まります。そして漢字十問テストのプリントが配られそれをやります。その後、プリントが終わったら先生に丸つけをしてもらい、他のプリントをやるという事を今でも行っています。

算数は、五年生の五月から99×99までの計算プリントを毎週やりました。そしてそのプリントを大きな画用紙にはり、ついに二月の末に完成させました。六年生では、先生が用意してくれたプリントをひたすらやっています。

寺子屋では、学校の予習や復習などをやったり、分から

ない事は、分かるまで教えてくれるので、とても助かっています。

■寺子屋での学習 ■ 六年 JSさん

私は、この寺子屋に来て二年目です。五年生の時は、算数だけをやっていました。でも、今は、国語と算数を両方ともやっています。

私が五年生の時に寺子屋の算数をやり始めた理由は、二人の姉は、塾に通ったり、チャレンジをやったりしているのに、私は何もやっていないし、家でも勉強をしていなかったからです。寺子屋に通って。前よりは家で勉強するようにになりました。しかも前は勉強が嫌いだったけど、勉強が好きになりました。

六年生になり、算数をまだ申し込みました。五年生の時も通っていたので、六年生でも通いたいなと思ったからです。国語を通い始めた理由は、とても苦手だし嫌いだからです。だから、学校のテストでも、そんなに良い点数をとっていませんでした。また、本を読むのが苦手だったり、作文書くのも苦手だったり、家族や友達と話してる時、たまに主語と述語がめちゃくちゃになったりすることが

ありました。だから、寺子屋の国語に通っています。寺子屋の国語に通ったら、文章を書くのが得意になったらしいなと思います。まだ、国語に通い始めて、少ししかたっていないけど、本を読むのが好きになってきました。これからも、国語と算数をがんばって、休まず通って両方とも得意になりたいです。



【先生から】

《新任の先生より》

今年度から三名の先生が新たに加わってくださいました。

◆KY先生 ◆

【担当 英語 中一男2名】
4月から中2の英語を担当しています。

3月までの10年間は外国人に日本語を教える日本語教師でした。それ以前は、高校受験と大学内部進学向けの英語の家庭教師でした。今回再び英語学習のお手伝いをさせていただくことになりとても嬉しく思います。

英語の勉強はどのよう
に？

英語は基礎が大切です。寺子屋でしっかり基礎力を付けて、これから先どんな英語力を伸ばせるようにしましょう。

英語が苦手な人には、先ず第一に英語を好きになっていただきます。教科書の大事な文を唱えながら何回も書いて覚えましょう。だんだん覚えた量が増えていくと英語の響きが心地よく、唱えることが楽しみになってきます。すると、英語が好きになりもっと勉強したくなります。そして、実力アップにつながり英語が得意科目となっていくのです。

すでに英語が得意な人には、教科書以外のお話を英語で読むことをお勧めします。更なる実力アップにつながります。

入試対策も大切です

入試クリアには「実力＋α」が必要になります。αは「傾向と対策の検討」です。実力アップや適切な対策のアドバイスに少しでもお役に立てるよう、微力ながら頑張りたいと思っております。どうぞよろしく願います。



◆NH先生◆

【担当 英語 中一女1名
中一男1名】

今年4月から中学生に英語の指導をしております。

寺子屋の活動については、西東京稲門会に入会した5年ほど前から関心を持っておりましたが、会社勤務の間は時間的に余裕がありませんでした。

稲門会のカラオケ同好会で寺子屋理事の竹森さんと知り合い、たまたま話題が寺子屋の話になり、昨年10月の定年退職を機に、一念発起(?)、指導員をさせてもらうことになりました。

私は民間企業の社員を定年まで勤め、過去に教員経験があるわけはありません。ただ、幸い会社員時代に約8年間米国勤務の経験があり、多少の英語ならばその経験を頼りに教えらるるだろうと考え応募した次第です。

実際に指導をスタートし

ても毎回試行錯誤を繰り返しており、人を指導することの難しさを痛感しております。夕方遅くになって遠くから勉強を習いに来る子供を見るにつけ、何とか彼らの役に立ちたいとの念が強くなります。

皆様のご指導を得てさらにお役に立つべく努めますので今後ともよろしくお願ひいたします。

◆YF先生◆

【担当 英語 中一女1名】

今年4月から稲門寺子屋に指導者として参加させていただいております。寺子屋のことは何年も前から知っていて、その趣旨に同感し興味を持っていました。そして、やっと「えいっ」と腰を上げたわけです。

英語の指導をしています。自分が中学に入学したころから、なぜか英語の勉強は苦にならず、洋楽が好きだったりしたので、「英語ではこういうのか」と楽しみながら、勉強できました。おかげで、英語の成績だけは良かったです。他の学科については、あまり興味がわかず、成績は今ひとつでした。でも一つでも得意科目があるというのは、とてもよかったと思いま

す。時には救いでしたし、振り返ると、おかげで学校が嫌になることを避けられたかなと思います。

私は高校に入学すると益々、英語に興味を持ちました。英会話学校にも通って、会話表現や時事英語に触れバイリンガルになりたい、留学したい、将来は同時通訳になりたい。そんな夢をいっていました。ところが、大学の英文科に入学して、かなりがっかりしてしまい、学習意欲が激減してしまいました。私にとって、大学は夢をかなえるために適した場所ではなかったかもしれせん。でもなぜか入学したからには卒業すると決めて、なんとか単位をとれる成績をとって卒業しました。

学生生活は、その他にもいろいろと楽しいこともありましたし、大学へ進学したことを後悔しているわけではありませんが、高校の時に抱いていた夢を膨らませる場所ではありませんでした。

同時通訳になる夢を努力もせずあきらめてしまった私ですが、英語が得意科目であったこと、今も自由自在というわけではありませんが、英語で自分の言いたいことが表現できる。ということが

ささやかな取り柄になっていきます。稲門寺子屋で縁のあった生徒さんに、「英語が好き、得意な科目」となるようにお手伝いしたいと思えます。そして、将来の夢につながることに役に立てたらと願っています。

授業風景 「英語」
クリスマスをテーマに



指導者会議・勉強会

「寺子屋をよりよくする」、「生徒への指導方法をさらに改善する」等をめざし、指導者の方々と寺子屋理事にて、指導者会議を年一回、また指導者勉強会を適宜実施しています。

＜指導者会議＞(4月)

平成28年度授業の振り返

り、今年度の課題、施策他

＜指導者勉強会＞(1月)

- ・講師：福岡市元小学校校長 門 悟先生(1ページ掲載)
- ・内容：「子どもの学習意欲の考え方」、「指導方法の基礎・基本」等

子供の未来応援基金

寺子屋塾は内閣府、文部科学省、厚生労働省、日本財団の「子供の未来応援国民運動」(子供の未来応援基金)のご支援をいただいております。

くチャンスがあれば、チャレンジできる。

編集後記

◆今回初めて生徒の作文を掲載しました。寺子屋塾での勉強をどのように思っているか等がわかりますね。

◆アクティブラーニング(1頁参照)は、2020年から本格的に改訂される新学習指導要領のポイントとなる内容とのこと。家庭でも寺子屋塾でもそれをつかり見据えて対応していく必要があると思います。

編集委員

高橋薫

関口和子